

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	教育委員会		
	課名	スポーツ振興課		
	係名	スポーツ振興係		
	記入者		電話(内線)	613

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続		(2) 事務事業 の名称	北関東中学校野球大会開催事業(スポーツライフ推進事業)				(3) 事業の 優先度	A		
(4) 総合計画での位置づけ					(6) 事業主体		市				
① 事業の区分	主要事業					(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	一般事業費(ソフト事業)			
② 施策コード	43102	(総合計画掲載ページ 123 ページ)					会計区分	一般会計			
基本目標(政策)	4未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文化)				財源区分		市単独				
基本施策	4-3誰もが楽しめるスポーツ・レクリエーション活動の推進(スポーツ)				予算科目		款 10	項 6	目 1		
施策	①スポーツ・レクリエーション活動環境の充実				予算書上の		北関東中学校野球大会開催事業				
施策内容	2各種大会の開催				事業名称		(予算書 181 ページに掲載)				
(5) 事業期間	開始	昭和	25	年	7	月から	(8) 事務分類		自治事務		
	終了			年		月まで (力年)	根拠法令				

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象(だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿(意図・どのような状態になるのか)
茨城県、栃木県下の中学校野球部員 スポーツ愛好市民 市内野球審判員	選手間の交流や参加中学校相互の親睦を深めるとともに、青少年の強健な体力と旺盛な気力を養い、心身の健全育成を図る。 また、「する」スポーツに加え、「見る」スポーツ、「支える」スポーツの振興を図ることにより、ゆうきの生涯スポーツの向上に寄与する。
(2) 手段(事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
毎年7月下旬に6日間の会期で、市内4会場において、北関東中学校野球大会を開催する。	第2次世界大戦後の復興期に、少年達が少しでもスポーツをする機会を増やす目的から、昭和25年7月から開催された。 また、開催にあたっては、市民から寄付のあった土地を、当時の野球愛好家達が手造りでグラウンドを整備し、第1回大会を迎えた。
(5) 事業をとりまく環境の変化(社会環境、市民ニーズ等)や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
少子化や子どもたちの野球離れにより、野球部員が不足し、出場辞退や他の中学校と合同チームで参加する中学校が増加している。今後は、参加中学校の見直しを行う必要がある。	

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映		
実施計画								
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）		
事業内容		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度		
(1) 事務事業費	報償費	838	854					
	需用費	983	1,155					
	役務費	28	59					
	委託料	78	78					
	使用料及び賃借料	177	382					
	原材料費	54	64					
	合計	2,158	2,592					
	財源	国庫支出金（千円）						
県支出金（千円）								
地方債（千円）								
その他特定財源（千円）								
一般財源（千円）		2,158	2,592					
合計（千円）		2,158	2,592					
補助・起債制度名								

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）								
指標の名称			単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）								
指標名	試合数	目標値	試合		91	91	91	91
		実績(見込)値		87	83			
		目標値						
		実績(見込)値						
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）								
指標名	参加中学校数	目標値	校		92	92	92	92
		実績(見込)値		88	84			
		達成率		95.7 %	91.3 %			
	参加人数	目標値	人		1,840	1,840	1,840	1,840
		実績(見込)値		1,760	1,680	1,840	1,840	1,840
		達成率		95.7 %	91.3 %			
5. 事業評価								
(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。								
開閉会式をスムーズに行えるよう、リハーサルの実施や入念な打合せを行った。 また、市のホームページにある試合結果表を2時間ごとに更新し、参加者やその関係者の利便性を考慮した。								
(2) 項目別評価								
評価項目・客観的評価				理由				
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	67回を迎える歴史と伝統のある大会であり、参加選手やその保護者、結城市民も大いに期待する大会に成長しておりこれを未来に継承していかなければならない。				
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	青少年の健全育成と体力の強化を図ることが目的であり、行政が積極的に関与する事業である。				
	手段の妥当性	A	妥当である	現在の手段が一般的である。				
効率性	コスト効率 人員効率	A	改善の余地はない	実行委員会組織が運営され、大会前に実行委員会を開催し、協議を重ねており効率は高まっている。				
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	参加中学校はもとより、地域住民にも広く便益を提供している。				
有効性	成果の向上	A	上がっている	参加者相互の交流や健全な心身の発達に寄与しており、成果は上がっている。				
進捗度	事業の進捗	A	順調である	数々の大会運営の実績がある軟式野球連盟の協力により、大会の進行、運営がスムーズに行えている。				
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。								
大会を通じて、参加中学校相互の交流と体力増進および健全な心身の発達に寄与するとともに、日頃の練習の成果を発揮する場として、事業の意図は十分に達成されている。また、伝統ある大会のため今後も継続していく。今後も少子化により参加校の減少が考えられるため、参加校の見直しをしていく必要がある。								
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？								
今後とも参加校の減少が見込まれるため、これまでに参加のなかった中学校を受け入れるなど参加校の減少を食い止める必要がある。								
6. 事業の方向性判断								
評価主体		28年度以降の事業の方向性		評価理由・根拠				
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）		注）記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）		大会を通じて、参加中学校相互の交流と体力の増進、健全な心身の発達に寄与しており、今後も継続する。				
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う				上記評価のとおり。				